

第22回八幡湿原自然再生協議会議事録（要旨）

- 1 日 時 平成25年3月16日(土) 13:30～15:30
- 2 場 所 山県郡北広島町有田 千代田中央公民館
- 3 出席委員 委員総数30名中19名出席
- 4 議 事
- 1 開会
 - 2 議事
 - (1) 平成24年度の活動報告
 - ① 地下水位観測
 - ② 西中国山地自然史研究会
 - ③ 昆虫類調査
 - ④ 空中写真撮影
 - ⑤ 日本山岳会広島支部
 - ⑥ 鳥類調査
 - (2) 事業評価について
 - ① 事業評価の進捗状況
 - ② 広島大学による事業評価
 - (3) 生物多様性きたひろ戦略について
 - (4) 次年度以降の活動について
 - ① 日本山岳会広島県支部の活動について
 - 3 その他
- 5 担当部署 八幡湿原自然再生協議会事務局（広島県環境県民局自然環境課）
電話：（082）513-2933（ダイヤルイン）

6 会議の内容

1 開会

【会長挨拶】

- ・ 自然再生の工事は終わったが、その後どのようにモニタリングなどをしていくかのほうが重要。
- ・ 日本生態学会の次回大会が、来年広島で開催される。その時に自然再生に関するセッションも行いたいと考えているので、その際には皆さんにもご協力をお願いしたい。

2 議題

(1) 平成24年度の活動報告

① 地下水位観測（広島県（事務局）報告）

- ・ これまでの地下水位観測データを取りまとめ、再生工事前後の地下水位を比較し、再生工事による水環境の変化等について報告。一部の水位計で止め具の劣化により脱落があったので、改善を図る。

②西中国山地自然史研究会（和田代理委員報告）

- ・ NPO法人西中国山地自然史研究会で実施された、いきもの観察会、植生調査、カスミサンショウウオの産卵調査及び野鳥観察会等について報告。

③昆虫類調査（石谷委員報告）

- ・ 石谷委員により2009～2011年に行われたトンボ類の調査結果について報告。

④空中写真撮影（山場代理委員報告）

- ・ 平成24年9月4日に実施した、小型自律飛行ロボットによる「空撮モニタリング」について報告。

⑤日本山岳会広島支部（齋委員報告）

- ・ 日本山岳会が公益法人化されたことも機会として、支部としても活動を行いたいと考えて開始した。平成24年6月3日の広島山の日に行った活動について報告。

⑥鳥類調査（上野委員欠席のため資料のみ）

- ・ 平成24年度の調査結果の概要を報告。

【質疑応答】

〔地下水位観測〕

（会長）

- ・ 継続的な観測が重要なので、水位計の金具についてはすぐにでも改善をしていただきたい。

〔西中国山地自然史研究会〕

（委員）

- ・ アサヒナカワトンボについては、間違いはないか。念のため確認していただきたい。

〔鳥類調査〕

（委員）

- ・ 本当は月に2回以上は調査を行った方がよい。

（会長）

- ・ 普通は年を追うごとに自然度が上がっていくが、2010年度に出てきたチョウの方がより里山のものなのか。

（石谷委員）

- ・ 調査回数が十分ではないが、里山のチョウ自体は増えてきている。目だった変化はまだ分からない。

（会長）

- ・ 全国的に見ても、自然再生事業地でのこうした調査自体はまだ少ないので、非常に貴重なデータとなる。

〔日本山岳会広島支部〕

(会長)

- ・ 事業地だけが湿地になればいいということではないので、山岳会の活動は歓迎したい。
- ・ 山の日には他の行事も集中しているので大変なので、山岳会が関わってすみわけしてもらえるといいのではないかな。
- ・ 山の日活動は、山だけではなくて湿地も対象である。
- ・ 森づくり県民税は藪にも使えるので、山の日活動で使えるよう、北広島町で検討していただきたい。

〔鳥類調査〕

(会長)

- ・ 上野委員は大変がんばっていただいているが、一方で次の世代の育成も必要である。

(2) 事業評価について

①事業評価の進捗状況について（事務局）

- ・ 事業評価の進捗状況を報告。当初の予定より遅れているが、7月7日にワークショップを開催し、それを踏まえて事業評価書をまとめ、9月頃に協議会を開催して内容を協議していただきたいと考えている。

②広島大学による事業評価について（中越会長）

- ・ 卒論生による、導水路の効果と植生に関する研究を紹介。
- ・ 現在行っている、事業評価の参考にもしていただきたい。

【質疑応答】

(委員)

- ・ 幹線導水路の取水口から少し行ったところで完全に土砂で埋まっているところがある。スコップ等で取り除いてもいいかもしれないが、上流からの土砂が入ってきやすい場所である。他の委員の意見も聞いてどうするか検討した方がいい。
- ・ ユニットは、環境ごとに切っている。簡便な調査方法にすることが今後のモニタリングでの課題ではないか。
- ・ 導水路の水位と植生のところの水位（地下水位）は同一ではない。
- ・ 過去の調査結果なども事業評価の参考にすべきである。

(3) 生物多様性きたひろ戦略について（白川委員）

- ・ 先日答申された、北広島町の生物多様性きたひろ戦略の概要について紹介。
- ・ 霧ヶ谷湿原は植物の採取等について法的な規制が弱いので、戦略の中で位置付けられた野生生物保護区に指定することなども可能。もし使えるようであれば、将来的に、協議会から提案してもいいのではないかな。
- ・ 野生生物保護監視員も来年度から指名していくことになる。この協議会でも相談させていただきたい。

【質疑応答】

(委員)

- ・ 他の地域でも地域戦略が策定されているが、具体的な実態調査がされていないことが多い。

(白川委員)

- ・ 町として独自の調査は実施している。

(委員)

- ・ 北広島町のレッドデータブックが発行されているはずだが、内容について修正をお願いしたいところがある。またこの協議会でも配布するなどして情報共有していただきたい。

(会長)

- ・ 修正箇所については町の方で対応していただきたい。

(4) 次年度以降の活動について

①日本山岳会広島支部の活動について（斎委員）

- ・ 日本山岳会広島県支部としての公益的な活動として、4月及び6月に霧ヶ谷湿原での環境整備や保全活動を行いたいと考えている。
- ・ 6月の活動については、広島山の日に絡めて実施したい。
- ・ 今後も継続的に実施していくことで考えている。
- ・ 山岳会会員だけではなく、協議会はもちろん、広く一般にも参加を呼びかけたい。

(会長)

- ・ 我々としては大変歓迎すべき活動であるので、ぜひ成功していただきたい。

3 その他

(1) 本の出版について（野村委員）

- ・ 予定より遅れているが、既に1次編集はできているので、近いうちに各執筆者に確認をしていただく予定である。

(2) 平成24年度自然再生協議会情報連絡会議（事務局報告）

- ・ 平成24年11月に埼玉県で開催された「自然再生協議会情報連絡会議」の概要を報告

(3) 日本生態学会における発表について（事務局報告）

- ・ 昨年度実施した植物群落調査の結果について、先日開催された日本生態学会において佐久間氏により発表された内容について報告。

(4) 「瀬戸内海の気象と海象」の紹介（中田委員）

- ・ 海洋気象学会から発行された「瀬戸内海の気象と海象」を紹介。

4 閉会のあいさつ（奥迫自然環境課長）

- ・ 日頃から霧ヶ谷湿原の維持管理やモニタリングにはご尽力いただき、厚くお礼申し上げます。

- ・ 現在行っている事業評価の結果を踏まえて、本協議会において、新たな事業実施計画の策定の検討などを協議していただきたいと考えている。
- ・ 県でも生物多様性多様性戦略を策定した。この八幡での取組みは他の地域でも広がって行っていたきたいが、皆様のご支援、ご協力を引き続きお願いしたい。

会議資料

- 資料1 第22回八幡湿原自然再生協議会出席者名簿
 - 資料2 八幡湿原自然再生協議会設置要綱
 - 資料3 平成24年度の活動報告
 - 資料4 UAV空撮画像を用いた八幡湿原自然再生事業地全体の概況
 - 資料5 事業評価について
 - 資料6 平成24年度広島大学総合科学部卒業研究紹介
 - 資料7 平成23年度自然再生協議会情報連絡会議
 - 資料8 八幡湿原における導水路設置による湿原再生に伴う植生の変化
(日本生態学会第60回大会発表資料)
- 別 冊 生物多様性きたひろ戦略
湿原の昆虫類の生物多様性保全に関する研究 I
八幡湿原自然再生事業実施計画（平成18年10月）